広報
まつだい
1987/11月
■発行　新潟県松代町役場総務課■電話■松代7-2220番■昭和62年11月26日　第336号

《人口の動き》　男2,823(－9)　女2,856(－4)　計5,679(－13)　世帯数1,608(－4)
10月末日現在　　出生4　死亡4　転入6　転出19

第5回松代町農業賞に 峠生産組合(集団) 井上修平さん(個人)

農業の近代化を目指し、あすの農業の担い手となる優れた農業者・団体を表彰し、町農業発展の一助とするとともに農業に対する町民的理解を得ることを目的として制定された「松代町農業賞」に本年度は集団の部で峠生産組合（代表牧田直弘氏）が、個人の部で寺田の井上修平（屋号せんのうだいら）が選ばれ、11月１日町農業祭で町長より表彰されました。

表彰された峠生産組合は、稲作の大規模経営の中核的農家が多く農業に積極的に取り組んでいる集落です。昭和五十八年に地域農業集団育成事業と高能率生産組織育成対策事業の実施により、厳しい農業情勢の中で、自分達の村がいかに生き残るかの話し合いがなされ、これには中核農家の規模拡大と担い手の高令化に対処するため村ぐるみで力を合わせた生産組織を作る必要があるとのことになり、峠生産組合が設立された。翌59年から60年の二年間には県単山村農業活性化事業によりライスセンター及びトラクター等の近代化施設と、ほ場整備や農道舗装などの基盤整備の実施により、生産組合の条件整備がなされ村の活性化が図られました。村ぐるみで力を合わせて将来展望に立った対策を検討し実行されていることが、町内のモデルであると認められたものです。

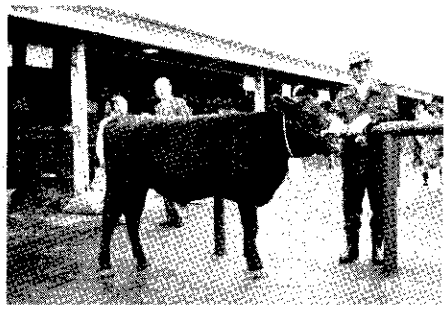
農道舗装に精を出す

個人の部で表彰された井上修平さんは水田二・三ha、繁殖牛五頭を経営する「水稲＋畜産」の複合経営農家です。

稲作部門では堆厩肥の増肥、即ち耕畜連けいを自己経営の中で進め、コシヒカリ、酒米等の良質米の生産に取り組み第一回良質米共励会では「五百万石」の部で最優秀賞を受賞し、土づくりの成果を実証しています。又農機具の過剰投資を抑え、コスト低減に努めています。

畜産部門では基本技術を忠実に実行し、転作による飼料作物の栽培、野草、稲わら等を活用し良質な粗飼料の生産確保に努め牛体の健康維持、繁殖耐用年数の延長、連産率の向上など腰の強い経営が他に類を見ないものとして評価されました。

今後増々の御発展を期待するものです。



県畜産共進会に去勢子牛を出品する井上さん

「売れる品物」は何か！

園芸作物推進大会

— 農業活性化作戦 —

園芸作物推進大会開かれる。

去る十月二十七日まつだい町農協では、なす、インゲン、しし とうなどの園芸作物の水田転作による生産の拡大と、消費者ニーズを考えた「売れる品物」の生産・産地づくり及び競争力の強い産地化を目指すための推進大会を開催した。会場の町総合センターには、生産農家等約三百名が参加し、東京丸大淀橋市場の鈴木専務より産地化の課題について激励され、なすとしし とうの生産者代表による事例発表もあり、園芸作物の振興に意義ある大会となった。

他用途利用米売渡状況 単位:袋130kg

生産予定数量	品種別	1等	2等	3等	計
うるち 1,108	トドロキワセ	470	57	3	530
	新潟早生	265	103	25	393
	はつこしじ	5			5
	その他うるち	156	24		180
	計	896	184	28	1,108

昭和62年第3回良質米多収穫共励会被表彰者

		部落名	氏名	10アール当り精玄米重
コシヒカリの部	最優秀賞	儀明	小堺俊夫	631.1kg
	優秀賞	室野	佐藤達行	616.0
	〃	儀明	小堺長一	610.3
	優良賞	峠	横尾輝一	604.8
	〃	蓬平	若井光弘	596.4
	〃	下山	宮沢邦春	591.1
五百万石の部	最優秀賞	松代	小堺貞男	628.9
	優秀賞	蓬平	若井君男	623.4
	〃	峠	横尾孝義	592.9
	優良賞	池尻	関谷健一	587.6
	〃	田沢	高橋修平	585.4
	〃	下山	容沢一慶	578.3

62年産米売渡状況

(S62.11.5現在) 単位:袋/30kg

	限度数量	売渡数量	売渡の内訳			等級別売渡数量 1等	上位等級比率	2等	3等	規格外
うるち米	(78,970) 72,406	限度内 (69,419) 70,615 規格外 (45) 79	政府米	その他うるち	5,338	3,403	91.4	1,880	29	26
			自主流通米	越路早生	3,576	3,565	99.7	11		
				コシヒカリ	22,158	21,646	97.7	512		
				越みのり	1,328	1,317	99.2	11		
				ホウネンワセ	1,896	1,896	97.7			
				トドロキワセ	18,234	18,234	95.6			
				新潟早生	7,553	7,553	91.4			
				はつこしじ	456	456	98.9			
				五百万石	10,155	71	99.8	3,322	6,709	53
小計	(78,970) 72,406	(69,464) 70,694			70,694	58,141	96.4	5,736	6,738	79
もち米	(3,000) 1,800	限度内 (1,885) 1,800 限度外 (0) 559 規格外 (35) 5	自主流通米	こがねもち	2,289	1,189	52.7	1,016	49	2
				その他もち	25	25	62.5	11	4	
				陸もち			—	2	63	3
小計	(3,000) 1,800	(1,920) 2,364			2,314	1,214	51.4	1,029	116	5
合計	(81,970) 74,206	(71,384) 73,058			73,058	59,355	95.0	6,765	6,854	84

注 1. 酒米の2等、3等は上位等級に含む。
2. ( ) 内の数字は前年度産米数量である。
3. もち米の超過米559袋については、県へ限度数量の増加申請中である。

過去7ヶ年の米の売渡状況

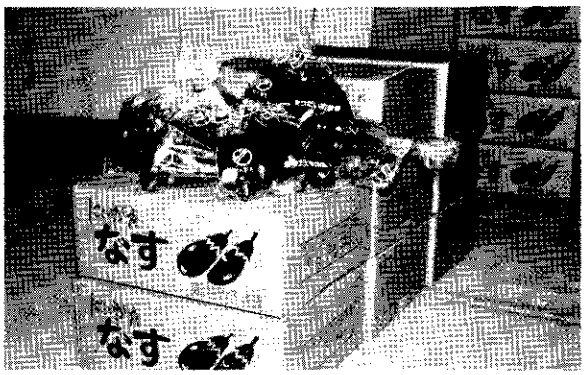
	作付面積(ha)	売渡実績(袋)	限度数量(袋)	限度数量(%)	作況指数
56	762	70,912	95,764	74.0	94
57	741	88,134	95,180	92.6	108
58	745	75,221	94,296	79.8	96
59	729	79,527	84,900	93.7	102
60	716	77,838	83,985	92.7	97
61	682	71,384	81,970	87.1	101
62	646	73,058	74,206	101.6	?

主な品種の作付状況

品種	作付面積	作付比率
コシヒカリ	245.9ha	38.0%
トドロキワセ	159.4	24.7
新潟早生	55.4	8.6
五百万石	59.3	9.2
こがねもち	39.7	6.1
ホウネンワセ	17.9	2.8
越路早生	25.6	4.0
その他	43.2	6.6
計	646.4	100.0

園芸作物販売実績 (昭和62年)

作目	栽培戸数	販売額 面積	数量	単価	金額	10アール当り 数量	金額
	戸	a	kg	円	円	kg	円
なす	35	250	181,505	162	29,438,080	7,260	1,177,523
いんげん	45	41.5	5,894	809	4,770,565	1,310	1,149,533
ししとう	71	45	22,663	573	12,992,690	5,036	2,887,264



松代町史編纂シリーズ㉓

大字小屋丸村の由来

町史編纂室 関谷哲郎

●小屋丸村、はじめ家建三所あり

今回、**池ノ畑の市川一郎氏**（おまえ・現在新潟住）の御厚意で、親戚のみなさん立ちあいのもとに同家歳の中の文書をお借りすることができました。

同家には江戸初期に関係した文書があることで、注目されていましたが、その一部をいま整理中です。このなかに、小屋丸村について書かれた文書があります。下記のものがその原文ですが、読み下し文になおしますと次のようになります。

取かわせ状のこと

一、越後の国頸城郡小屋丸村は古来より家建三所御座候

一、本小屋丸池之端村平左ェ門

一、枝西小屋丸村　長右ェ門

一、枝下山村　次右ェ門

一、本小屋丸より池之端へ西方三町余、

一、本小屋丸より枝西小屋丸へ十五町余、

一、本小屋丸より枝下山へ東方三十町余、

一、当村鎮守三社

内

鹿嶋大明神　本小屋丸池之端村　平左ェ門　これを守る

熊野三社大権現　枝西小屋丸村　長右ェ門　これを守る

十二大明神　枝下山村　次右ェ門　これを守る

右三社鎮守三ヶ村三人守り来るところこのたび長右ェ門、田畑山林、家屋敷とも持ち分のこらず平左ェ門へ売り渡し申候間、熊野三社大権現の社地、宮建かえ、祭りとも以後平左ェ門方で永代これを守る定めとした。

（以下略）

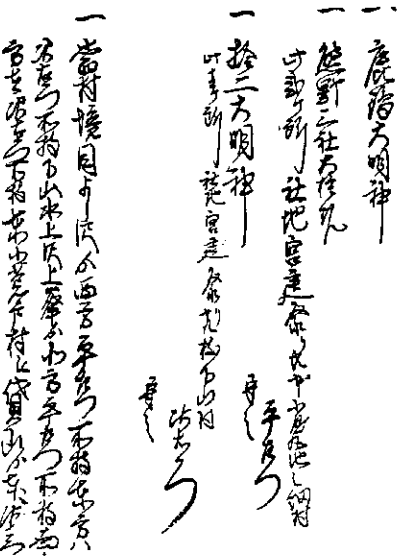
池ノ畑を**本小屋丸池之端村**、小屋丸を**枝西小屋丸村**と記されているところに注目してください。

どうやら**小屋丸村の立村**のもとは池ノ畑地内にあり、次右ェ門が現下山に住し、長右ェ門が現小屋丸に住んでいたということになります。

ほかの文書では、小屋丸の長右ェ門は天和元年に小屋丸のすべてを池ノ畑平左ェ門に売渡して小屋丸を立ちのいたとあり、その時の名子百姓が七軒あったことが記されています。

名子百姓とは前記三名の百姓に従属する家来のような百姓のことをいいます。

小屋丸では三百年程前に先住者が立ちのき、そのあと市川氏（元は最上）が池ノ畑の市川姓を貰って住み、柳姓は苧ノ島からきたといいますが、この文書の以後移住してきたものと思われます。



この秋二つの学校で

下山分校 と 苅平小学校

サヨナラが

40年の歴史をありがとう

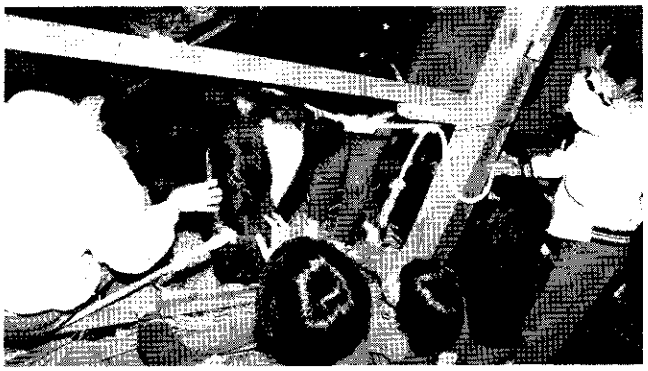
松代小学校下山分校が来年三月末で児童数の減少、社会環境の変化により、四十年の歴史に終止符をうち分校としての灯が消えることになりました。

今、登校している七人の子供たちは、来年四月から松代小学校に仲間入りすることになります。

去る十月三十一日、出稼ぎ時期を前に閉校式が行われ、出席された部落の人の中からは、すすり泣く声も聞こえ、尽きない想い出に浸っていました。

なお、建物は町の活性化に役立てるべく計画中です。

▲牛からの贈り物、スキー帽をかぶって思い出を語る



▲子供の涙に牛の目にも涙が……

▼分校の灯がともるのもあとわずか

▼同窓生を代表し思い出を語る宮沢広一郎さん

三頭の子牛君ありがとう

〝三頭の子牛と九人の子供たち〟で話題を振りまいた苅平小で十一月十四日、一足早い卒業式がありました。

四月四日、わずか五十㌔で入学した子牛は、二百二十六日間で四百㌔近くまで成長し、その間に子供たちと先生方、それと部落の人たちの中でさまざまな物語を育んできました。卒業式で、それぞれの〝飼い主〟から卒業証書が、牛からは子供たちに記念品が送られる間、子供達の目から涙が絶えません。

別れを知ったのか、優しい目をした牛の目からも涙が……

▲温かな人たちともいよいよお別れ

▼期待と不安が入り交じる7人の子供たち

清水小5年
五十嵐裕子さん

走れ！われらの北越北線

北越北線シリーズ㉑

北越北線へのゆめ

清水小学校　五年　五十嵐裕子

北越北線が開通するころ、私は中学三年生。――――

毎日、学校までバスで通う。帰りのバスを待っている間、文ぼう具を買いに店に寄る。店の中は、とても明るく、広い。いい品物がたくさん売っている。

駅前へも遊びに行く。広い道路のわきに、家や店がならんでいる。駅の中では、人々が電車を待っている。たくさんの人を乗せた電車が入って来て止まる。中の半分くらいの人がいっせいに降り、待っていた人たちが順番に入っていく。電車の中は、またすきまなくうまる。

遠くの学校に通っている高校生、買い物に行ってきたお母さん、親せきの家にとまりに来たらしい人など、いろいろな人が駅に降りた。自転車で、バスで、歩いて、タクシーで帰っていく。

駅の中では、おべんとうやおみやげを売っている売店のお姉さんが、いそがしそう。

そんな様子を見ながら、私は友達と話をする。今度、電車に乗ってどこへ行こうかな。十日町もいいし、上越もいいな。湯沢まで出れば、東京へも行けるかな。――――

北越北線が開通するころ、私は、こんなふうに変わっているかな。

～つづき～

"すこやかに老いるために"

(ボケないためにいまできることは…)

大島保健所　上野保健婦

呆けのきっかけとして家族が気付いた事は、家族との離別、特に配偶者（夫）の死、近親者の死、近親者の転出、環境の変化（転居、入院、引っこし」等が多いようです。

痴呆老人をかかえる家族の苦労は大変のものです。これからの社会では特にお年寄りの方を地域ぐるみで、みんなが協力し理解して支えてあげなければならないと思います。近隣の町村では、痴呆老人を一日あずかる託老をはじめ、住民のボランテアの協力もあり、非常によろこばれているようです。

これからの社会に向かって私達はすこやかな老後を送りたいものです。自分達の努力によって呆けは防げるのです。長い人生呆けないために次の事に心がけましょう。

呆けやすいタイプ（呆けやすい人）

①趣味がない人（働く事が趣味の人）

②まじめできちょうめん。ゆうづうがきかない。

③内向的で人との交流が少ない。

④ケチの人。

呆け予防（呆けをふせぐポイント）

①脳血管疾患を予防しよう。

痴呆の原因の60%が脳血管疾患によるものです。

②好奇心をもとう。

140億もある脳細胞は20才をすぎると一日10万個ずつへるといわれます。でもおそれる事はありません。頭を使う事により脳細胞同士をつなぐ回路がふえて活発な働きをしてくれます。

③足を使おう。

足を動かす事によって血液の流れが促進されます。足は第2の心臓といわれます。

③手を使おう。

手を使うと脳に刺激を与え、血液の循環をよくするので老化を防ぐ事ができます。

④男も積極的に料理をしよう。

料理は全身運動で足を使い、両手を使い頭と身体の老化防止になります。

⑤おしゃれをしよう。

おしゃれは一種の演技です。いつも意識しておしゃれをしましょう。

⑥睡眠時間を大切に。

脳は休養を要求します。脳のつかれは眠らないと回復しません。

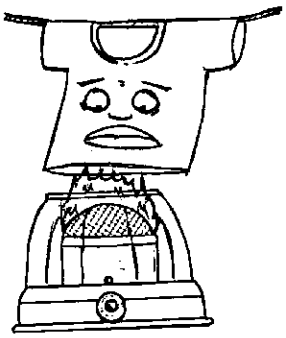
⑦人生はのんびりいこう。

ストレスを友達に頭の老化を気にする事はありません。たのしく、のんびり考えましょう。

今日も今夜も 火の用心

暖房器具による火災を防ごう

防災シリーズ⑮



「面倒と心のスキが火事のもと」

例年この時期になると新聞紙上に暖房器具による火災記事が目につくようになってきます。寒くなると火気使用の頻度が高くなり出火事例も増加してくるものと思われます。

これら火災もちょっとした不注意やミスによって起きており、いわゆる失火によるものが大部分です。ふだんから火気使用器具の手入れと点検を実行し、寝入りばなや深夜などの火災はどうしても発見が遅れ焼死者が多くなりますので寝る前の火気点検を習慣としましょう。それが自分の身を守ることになり家族の安全につながります。

「気くばりは防火の基本」

○対震自動消化装置付のものを点検整備してから使用する。

○使用場所のまわりにカーテンなど燃えやすいものはないか。

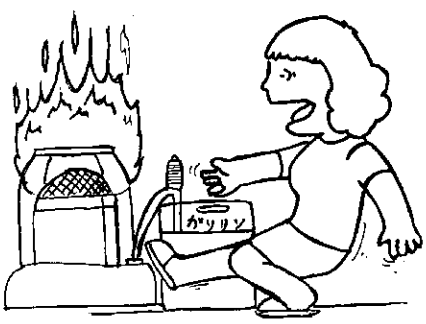
○火をつけたまま給油したり持ち運びをしない。

○洗濯物を干すなどの目的で使用しない。

○お出かけ前やおやすみ前には必ず消火を確認する。

○出入口や通路には置かない。

○間違った燃料を給油しない。



松代剣道連盟対外試合で成果発揮

◎十日町市少年剣道大会

去る十月十日、十日町市西小学校体育館において、少年剣道大会が開催され松代からも少年剣士達十七名が参加しました。

松代の子供達も、高校生の部を除く四ブロックにエントリーして日ごろの練習の成果を充分発揮し立派な成績をおさめてきました。入賞者は次のとおり。

○小学校低学年の部

二位　阿部新吾（東北電力）

敢闘賞

石口久司（文八）

石口克行（藤見屋）

○中学校男子の部

二位

柳　志朗（清栄屋）

○中学校女子の部

三位

鈴木奈穂子

（和美屋）

◎親善少年剣道大会

秋晴れに恵まれた十一月一日松代町総合体育館において親善少年剣道大会が開催されました。

この大会は、当連盟が教室を開催して以来の念願であり、十日町魚沼管内と東頸城郡内との子供達の親善交流を図りながら剣道の振興と少年健全育成に資す事を目的に行われた大会でした。

このため当日は、十日町、中里、津南の魚沼勢をはじめ、牧、浦川原、地元松代の郡内の各剣道教室等に通う剣士達総勢九十一名（小学生四十六名、中学生四十五名）が参加して、総試合数百五十三試合に朝から熱戦が続きました。

我松代町は、郡内と魚沼の接点にあり、この親善大会によって両管内の交流と親善がより一層図られ、剣道振興と少年健全育成が推進されるならば、この上ない喜びではないかと思われます。

なお松代の入賞者は次のとおりです。

○小学校低学年の部

三位　阿部新吾（東北電力）

○中学校女子の部

二位　鈴木奈穂子（和美屋）

三位　鈴木綾子（新田桶屋）

三位　鈴木英理子（福海屋）

◎参加者内訳

十日町剣友会　十名

川治剣友会　十二名

中里剣友会　八名

津南町剣道スポーツ少年団　二四名

牧村剣友会ジュニア部九名

浦川原剣道連盟　四名

松代剣道連盟　二四名

計　九一名

◎郡市剣道大会

十日町剣友会創立三五周年を記念して行われた第三二回郡市剣道大会が、十一月十五日十日町市総合体育館で行われ、松代からも小学校三年生から一般までの十七人が出場いたしました

例年行われているこの大会も剣道教室での練習の成果により回を重ねるごとに入賞者が増えております。当日も、小学校低学年団体の部で、先鋒から大将までの五人がそれぞれの持ち味を発揮し、決勝戦まで順調に勝ち上り、決勝戦では大将戦までもつれながら惜しくも涙をのみました。また午後からは個人戦が行われて大会は終了いたしました。

なお入賞者は次のとおりです。

◎小学校低学年の部

○団体戦　準優勝

先鋒　阿部新吾（東北電力）

次鋒　柳　竜一（あずま）

中堅　石口久司（文八）

副将　馬場一美（とんぼ）

大将　石口克行（藤見屋）

○個人戦　三位

石口久司（文八）

◎中学校男子の部

○団体戦　三位

先鋒　鈴木正和（松里）

次鋒　関谷裕明（富屋）

中堅　関谷和明（富屋）

副将　柳　志朗（清栄屋）

大将　鈴木修一（福蔵）

○個人戦　三位

柳　志朗（清栄屋）

第10回松代町バトミントン協会長杯争奪戦

町内外から多数参加

坂詰さん（シングルス）準優勝

去る十月二十五日、町総合体育館で、隣接する市町村から愛好者が参加し、盛大に協会長杯争奪戦が行われました。

各クラスでの戦績は、優勝は、町外者に譲りましたが、男子シングルス、Aクラスで坂詰浩一さんが準優勝するなど大健闘しました。

松代町中央婦人学級生

第11回上越地区自作視聴覚教材コンクール
最優勝賞に輝く

町公民館の事業として毎年行っている中央婦人学級（希望する婦人対象）で、今年はＯＨＰ（オーバ、ヘッド、プロジェクター）を使った作品づくりに取りかかりました。7月末に一回目の勉強会をやり11月4日のコンクールまで3ヶ月間、夜遅くまで何回も集り、失敗の連続の中で何とか作品が出来上がりました。上越での審査会には緊張しながらも実演し、結果は、スライド、ＶＴＲ等全部門を通して一番良いという事で最優秀賞をいただく事が出来ました。学級生の皆さん本当にごくろうさまでした。

◎ＯＨＰとは透明なシートの上に書かれた文字や絵等をレンズを通して拡大してスクリーンに写す事が出来る機械です。

作品づくりに参加して

学級生　五十嵐江美子

私達は、下山部落に言い伝えられている話をもとにして、作成に入りました。

はじめは、どこから手をつけて良いやら、戸惑いました。画面を分担して作るので、頭の格好が違ったり、鼻が高すぎたり、なかなかうまくいかなかったが、大ざっぱに作った方が良いことがわかってきた。人形の首とか手が動くようにするのがこれまた大変。何度も何度もやり直しました。台本を、わかり易く書くことができなくて、ずいぶん、書き直しました。今度は音楽。あまり人に知られていない曲を捜し、なんとか場面に合う曲が見つかった。最後にナレーション。これは難しいものです。何度稽古しても、抑揚がつかなかったが、いつのころか軌道にのってきた。音楽とナレーション、画面の操作が合うように、繰り返し稽古。度胸をつけるのに、保育園へも一度。子供達は、静かに私達の作品を見てくれ、なんだか少し自信が出てきたような気がした。

さて、いよいよコンクール。やはり皆、緊張している。もうここまできたら、当って砕けろ。落着いてやるしかない。クライマックスまで六分十八秒、ここがうまくいけば後は、少しくらいずれても問題はないと……。心配した音楽とナレーションのずれもなく、時間どおりに進行した。十二分のドラマが終った。そして、思いがけず賞をいただいた。ご指導いただいた蒲野先生、公民館の方々ありがとうございました。

野球大会

町長杯 アックスボンバーズ
協会長杯 伊沢ワンダーナイン

今年度の野球大会結果

第41回町長杯争奪野球大会

一部リーグ
優勝―アックス・ボンバーズ
二位―奴奈川モンチッチ
三位―役場フェニックス
三位―伊沢ワンダーナイン

二部リーグ
優勝―松高ローチェス
二位―松代イレブン
三位―松代スターズ
三位―司工務店

第8回協会長杯争奪野球大会

優勝―伊沢ワンダーナイン
二位―役場フェニックス
三位―役場イーグルス
三位―松代スターズ

松代町の野鳥

マガモ

松永洸

シリーズ⑨

ハンターの間で、「アオクビ」と呼ばれ、カモ類の代表的なこのカモは、ガン、カモ目ガンカモ科のマガモと分類されます。

昔から、「カモネギ」とか「あいつをカモにして一杯飲もう」などと言われていますが、この場合のカモは少したりないとか、うすのろま、という意味らしくあまりよい表現ではありません。マガモは、この種の少したりないカモではなく、りこうな鳥で、毎年一一月一五日から狩猟が解禁となりますが、前日までは、あちこちの池に遊んでいますが、いざ一五日になりますと、動物的な感(この場合、カモ的感でしょうか)で、さっさと保護区や休猟区などの安全な場所に移動するのです。

マガモは、本来、北半球の北部で繁殖するのですが、日本でも、北海道、栃木県奥日光、群馬県尾瀬沼、長野県上高地、山梨県の山中湖、青森県八甲田山に繁殖の記録があるほか、昭和五五年の緑の国勢調査によれば先の場所のほか、新らたに広島県、山口県、福岡県から繁殖又は、繁殖の可能性が報告され、新潟県でも、昭和四九年に上越市の高田城公園のお堀で、繁殖が確認されており、しかも、平地での繁殖記録が注目されました。日本で繁殖するマガモを除いて、秋渡来するマガモは、標識調査の結果、埼玉県、石川県で標識放鳥されたものが、ソビエト連邦のヤクーツク、ハバロフスクで回収され、日本に渡来する。マガモは、ソビエトから渡来するものもいるのがわかりました。また、本県での記録としては、昭和六〇年、石川県の大聖寺片野鴨池放鳥のものが、翌年の一月と二月に、黒崎町と新潟市の赤塚で回収された記録があります。松代町では、カルガモが多く、マガモは少ない種でありハンターは、「わたり」(渡り鳥のカモという意味)と称してカルガモより珍重しているようです。

マガモは最初にも書きましたように、アオクビと言われるように、雄は、頭部から首にかけ緑黒色、首に白い輪、胸は栗色背は淡黒色で、体は灰色、尻の部分は黒く、尾羽の先端の小羽は巻上がっている。嘴は黄色となっており頭部から首にかけての色彩は光の当り方によって、青く見えたり緑色に見えたり多様に変化し美しい色をしています。しかし美しい色も、日本に渡って来たばかりの九月、一〇月ころの姿は、雌と同じ色彩で目立たない色をしており、これを「イクリプス」(eclipse)と呼び、日食とか月食を意味し、この場合、光を失なうとか光を奪うという意味で、雄の光沢のある色、姿はなく、雌と同じ色となり区別しにくくなる時期です。しかしよく観察すると、黄色の嘴、頭部の暗色、顔や首が灰色がかっていることで区別することができます。このイクリプスの時期は、一一月ころには終りに近づき、雄は美しい姿となって来ます。その反対に、雌が雄のような姿になることもあるらしく、今から一七、八年位前瓢湖に雄化マガモがいるからめぐみちゃん　こんにちは

めぐみちゃんがとばしたふうせんがたかーいおそらをふわりふわりととんでやまをこえかわをこえまちやたんぼもこえて、とおーいおじさんのうちのにわまでとんできました。めぐみちゃんはふうせんがどこまでとんでいったかなとしんぱいしていたでしょう。おじさんのところはとちぎけんといってとてもとおいところですよ。めぐみちゃんのふうせんがよくとんできたのでおどろきました。

おじさんも**火の用心**にきをつけます。

めぐみちゃんも**交通安全**にきをつけてください。めぐみちゃんがおおきくなるまでおじさんはふうせんをだいじにとっておきます。これからさむくなるのでかぜなどひかないようにげんきにほいくえんへかよってください。

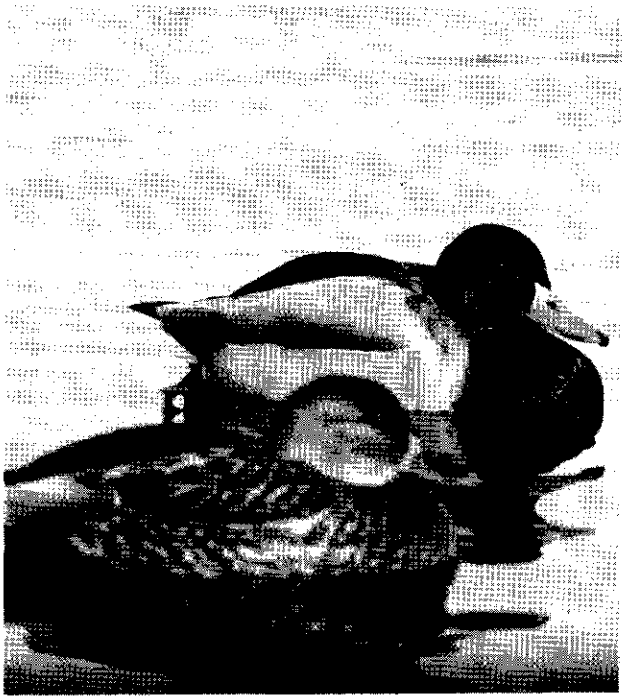
十月三十一日

ふうせんをひろったおじさん

かねこきんいち

わかつきめぐみちゃんへ

見に行こうと誘われ、わざわざ柏崎から瓢湖に見に行ったことがあります。一日中観察したのですが、嘴や、頭部は、雌の特徴を示しているのです。羽色は雄の姿で、わからなくなった経験がありましたが、これはやはり雌のマガモで何かの原因で雄のような色彩になったのかも知れません。**写真のマガモは**、手前が雌で、奥の方が雄です。

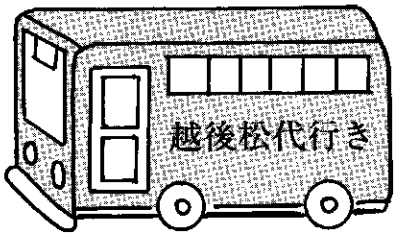


マガモは、昼間は湖沼で眼ったり休んだりし、夕方から、水田、沼沢地などに出て植物質の餌を取ります。主にイネ（落ち穂）ノビエ、ヒエ、イヌアワなどの雑草の種子、水草の芽や根などを食べ、たまには、ミズスマシ、トンボ、ヤンマの幼虫などの昆虫、水生昆虫を食べたり、カワニナ、タニシ、シジミなどの貝類なども食べることが観察されています。これらの餌をとる時は、水面に浮いているものは嘴でペチャペチャと水と一緒に餌をとり、水だけをこして食べ、水底の餌は、逆立ちして首をのばして採餌します。

最近、マガモの肉は、カモ類の中では、一番美味ということで、アイガモなるカモを作り出し食用としていますが、これは、野生のマガモと、アヒルの雑種で、もとを正せば、アヒルもマガモを改良して作り出したものであり祖先は、野生のマガモです。

マガモは、夫婦で行動していると言われ、夫婦が他の夫婦と行動をともにし、群を作っております。夫婦は、冬場雪のある時季でも、太陽が顔をのぞかせると、水中で交尾をしております。今の季節でも、時々、雄と雌が向かい合い、雄が頭を上下に動かし雌の周辺を動きまわり雌の受入れ体勢が整うと雌は水面に首をのばし、雄は雌の背に飛びのり交尾するのですが、雌の身体は水中に没し首から上がわずかに水上に出ている程度になるのです。この間、二～三秒で終りますが、その後雄は、首を前の方に出して雌の周辺をものすごいスピードで、グルグルとまわり、その間、雌は、身づくろい（鳥ですから羽づくろいが正しいでしょうか）をし、何事もなかったように、すました様子をしています。このようによく知られた鳥でも、一つの行動を徹底して観察すると思わぬ発見があるかも知れません。今年も、銃から一羽でも多くの鳥たちが生き残れることを希望してこの頁を終ります。

出稼者の皆さん
正月帰省バスをご利用下さい。



本年も12月29日(火)・30日(水)の両日、正月帰省バスが東京上野から、12月29日は名古屋からも運行されます。又12月28日(月)には湯沢～松代間の帰省バスを町出稼組合の事業として行なう予定です。申し込みは料金を添えて12月10日までに役場職業係に申し込んで下さい。本年の料金等は左の表の通りです。

正月帰省バス運行計画

区　分	東京～松代	名古屋～松代	湯沢～松代
乗車料金	4,900円	6,000円	1,300円
集合場所	上野公園バス駐車場付近	新幹線名古屋駅前	湯沢駅西口（温泉口）
出発日時	12月29・30日 集合 午前9時 出発 午前9時40分	12月29日 集合 午後8時 出発 午後9時	12月28日 集合 午前11時 出発 午前11時30分
町到着時刻	午後4時ごろ	翌朝8時ごろ	午後1時30分ごろ
申込期日	12月10日までに料金を添えて申込んで下さい		

豊かな緑 どこにも負けない ぼくらの郷土

蓬平小学校

勤労体験で20人のひとりごと

6年 小堺 友幸

田んぼにはいったら、ヒルにくいつかれたよ。**小堺美紀**

老人会長さんは、朝顔つくりの名人だよ。**小堺 豊**

いねはこびが なんぎくて、大へんだったよ。**若井邦明**

早くひようたんで、かざりびなを作りたいなあ。**小堺みよ子**

よもぎの学校のウサギは、とってもかわいいよ。**小堺佳枝**

毎朝、チャボやウサギの顔を見るのが楽しみだ。**小堺淳史**

ぼくは、夏やすみに、花の水くれをがんばった。**小堺 悟**

今年も、花いっぱいの学校になってうれしい。**小堺あゆみ**

わたしが作ったもち米で、もちつきをした。**小堺静子**

大豆を作り、石うすでひいてきなこを作った。**若井ゆうこ**

村の人から、いろいろ教えてもらってよかった。**若井博隆**

みんなで働いてかく汗は、すごく気持ちがいい。**小堺友紀**

稲せおいがじょうずになったとほめられた。**小堺健一**

仕事をして、米づくりの大変さがよくわかった。**小堺すみ子**

ぼくは、家でも夜おそくまで脱こくを手伝う。**小堺将哉**

米づくり作文コンクールで入賞できた。**若井春彦**

今年は、一人が三人分の仕事をしてがんばった。**小堺 健**

行事をやるたびに、いつも晴れるのがふしぎだ。**小堺俊和**

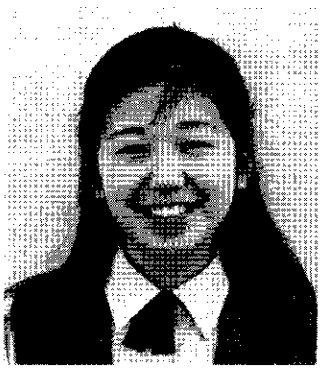
親子炊飯遠足で、初めて司会をやれてよかった。**小堺竜太**

感動体験は、学校と地域の共同作業で生まれる。**職員一同**

ヤング広場

「ナカマ・モトム」

高橋弘美



私は「青年の丘」という集団活動の在り方や、仲間づくりを目的とする研修に、何度か参加させていただきました。

そして、県内から集う多くの人達と行動しながら、ふと「生涯に、いったいどれほどの人達と出会えるのだろう。そして、どれだけのことを吸収できるだろう。」と思いました。

私がこの研修に参加していなければ、きっと会うことのない彼らとの交流は、とても良い刺激になったのです。

私は、松代を離れて暮したことがないので、特にそうなのですが、できるだけいろんな所へ参加して、多くの人を知りたいと思い続けています。気の合う人達とだけ過すのは、心が安まるけれど、それだけなら自分が小さく凝り固まるような気がしてならないからです。

そんな気持が元になって、まずは身近な青年会、元気会に参加していますが、もっと大所帯になればいいのにと思います。

しかし、情報や交通手段の発達で、都会と町の文化の差がそれほどない現在、個人の趣味の世界が豊かになり、「なにも、わずらわしい集団に入らなくたって、十分楽しめる。」という考え方も、あって当然です。

そんな時代の流れの中で、青年会は、ここだけに限らず勢いを失ってきていると思います。

そして、新しい一つの試みとして発足した元気会でさえも、ともすれば、ほんの内輪だけの集団になってしまう恐れがあるのです。

確かに、生まれたての元気会は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「何か自分達でやってみよう。」とやる気のある人達の集まりです。歴史がない分、既成の概念にとらわれず自由な雰囲気です。現に、谷山浩子を招いてのコンサートは、みごと成功しました。

でも、松代にはもっと多くの若い人がいるはずです。会の存在をまだ知らない人もいるでしょうし、こういう集団を嫌う人もいるでしょう。

けれど、集団を嫌う人こそ、こういう会には必要だと思います。なぜなら、同じカラーの人ばかりでは、一定のレベルまでしかいけないし、へんに物わかりの良い「良い子の集団」になりそうで、私はいやです。

なにも集団に属したからといって、そこにどっぷり染まる必要はないのです。私自身、誰かの為とか何かの為なんて全く考えてはいません。ただ、個人では不可能な事も、集団になれば実現しうるので、そこを利用しない手はないからです。

既存の会に限らず、もっと他の何かでもいいのです。いろんな人が集まれて、かつ町外の多くの人達と交流の持てる、そんな「外へ開かれた」雰囲気がほしいと思います。

そして、どんなに頑張っても限りある出会いだからこそ、一つでも二つでも増やすように、積極的に行動して、視野を広げられたらと思います。

今月の表紙

秋晴れの十一月一日、農協本所前で農業祭が行われました。歩行者天国にした路上では、野菜、錦鯉の即売、樽酒、綿アメのサービス、日用品の店などが出され朝から大にぎわい。

この日お目当の、つき立ての〝おモチ・サービス〟には長い行列ができ、モチのつき上がるのを待っていました。その脇では、農協の組合長さん自らキネを持ち、ペッタン・ペッタン。

二俵のモチ米もつき上がるとアッと言うまに売り切れ。

楽しい一日でした。

戸籍の窓口

十月受付分

幸せ多い人生を(結婚)

鈴木政広・田村良子
(松代・新町)
池田正明・小澤美幸
(薮平・木槻)

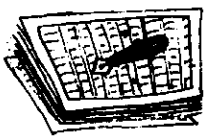
げんきなよい子に(出生)

齋木智美　父成一　母みつ子
(長女・室野・堂の前)
齊木明穂　父稔　母春子
(2男・中子・憲保)
関谷亜利沙　父昌文　母智子
(長女・室野・忠左ェ門)
鈴木　静　父裕之　母八重子
(2女・松代・利乃屋)

ご冥福(死亡)

山岸長十郎　78歳　松代　上原
山岸市郎次　85歳　仙納　あち前
佐藤コマ　80歳　木和田原・東屋
高橋　梓　1歳　千年　香具

文芸



しぶみ句会

風さやか古寺の参道稲架匂う
城山の道すじ盛る秋桜
雨上がる雲の狭間の今日の月　六花

束の間の雲の切れ間や望の月
参道にはみ出る柿の熟れし色
鮭漬ける女工百人無口なる　淡水

夕映えの越の城山紅葉濃し
高原に群れなす牛や秋日和
コスモスや深山清水の立石板　立石

赤とんぼ歩けば顔に当たりそう
大寺に名石掘えて萩の雨
すすき野の蔭一群の野菊かな　去水

笠紐に涼しき風や秋深む
神無月天に舞する鳶の声
わが肩に蜻蛉とまるや秋の暮　一元

鬼灯の赤きを指さす背なの孫
離村する山あいの家鶏頭燃ゆ
晩生菜はぜてかくるる草紅葉　八千代

この年も実紫の実色づきぬ
紅葉のきざしある山寺囲み
間引菜の色鮮やかに今朝の汁　喜沙

満月や窓辺の風鈴寒々と
名月や遠く弥彦の山照らす
名月や枯木のかげより池に映え　世香

雲切れて名月高くのぼりけり
もぐ人もなき山道の通草かな
ひんやりとのぼる名月森染める　千登世

葉鶏頭ますます燃えて雨後の色
通学路みなが触れ行く秋桜
鰯雲越後連山絵のごとし　公明

真っ直に歩けぬ小路秋桜
栗のイガ口あけて今落ちそうに
稲架解けば隣家もやはり稲架を解く　紅葉

名月を上げて鎮守の森黒し
待宵に月見団子をいただけり
残り稲刈るや日暮れの早かりし　枯水

蒲生句会

となり家は村一番の冬構え
竹蒂おいてある駅秋深し　折人

高々と妻の声して小春かな
ことごとく品を失い葱倒る　月日

奥利根の全山石と紅葉かな
霜白き紅葉の宿や朝の風呂　爽風

草枯れて馬頭観音あらわるる
逃げる枝抱きよせ山茶花囲いけり　ふさ女

農業祭わが子を探す親もいて
野沢菜をとるや雨風はげしくて　みつ女

已が影踏みて急ぐや秋日和
熟れ柿の甘い匂いや夜の道　耕人

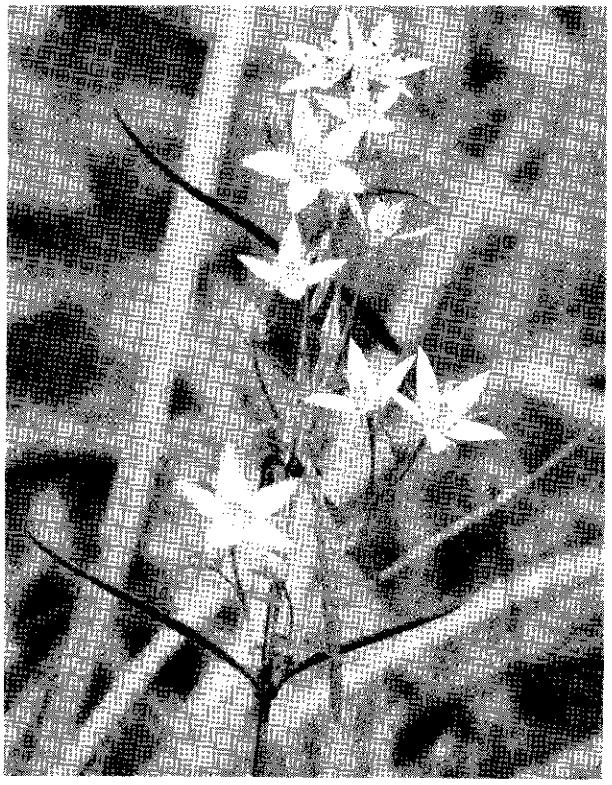
朴の葉は朴の根本に落ちにけり
落葉はりつく鍬そのままにしまいけり　鐵堂

色づけり村捨て去りし家の柿
末枯れや田に植え付けし栗の苗　耕山

園芸一口メモ

＝松代園芸愛好会＝

野に咲く花 センブリ



茎はまっすぐ立ち、枝分かれして高さ二十五糎くらいの多年草、四角形で暗い紫色をおびる。

葉は茎に向って対につき、細長い線形をしている。ふちにはぎざぎざがない。

花は九月～十月頃咲き、枝の先にややびっしりにつき、集まって円すい形になる。花の色は白色で紫色のすじがある。おしべは五本、めしべは一本とまことに清楚な花である。

昔から胃腸の弱い方には、かかせない漢法薬の代表的なものである。

センブリは、苦味が強くて、千回ふりだしてもまだ苦いという意味だそうです。

お詫び

先月号の二ページ〝松代中男女都駅伝大会を制覇〟の記録欄で相沢　希（二年）は一年の四位　松代Bで　柳　好子は柳妙子の誤りでした。訂正してお詫びいたします。